桜実大で、変化ない。

心——重量2.3g心嚢が胸骨と癒着しておる他変原がない。

腎——右腎の重さ3.5g、左腎3.3gで外観、剖面共に変化がない。

副腎——変化ない。

脾——重さ1.0g、尋常

膵——重さ0.4g、異常が認められない。

小腸、大腸——それぞれ変化ない。

Ⅲ む す び

分與せられた黄色抗酸性菌は抗酸性であり、形態学的にも染色性にも極めて人型結核菌に類するところがあり、抗煮沸試験価も同様であるが、Katalase 反応が陰性であった。

岡一片倉培地には好んで増殖するが、その他の培地には増殖しなかった。なお岡一片倉培地では培養3日目か

ら集落の出現を見、また集落の黄色または橙色は日光の遮蔽曝露にあまり関係がなかった。すなわち最初から着色して、集落出現後数日にして着色するようなことは無かった。

継代培養3代で菌体に大小不同を来し、6代では球菌形のものも現われた。

Streptomycin、P-アミノサリチル酸に対しては、1.0ml 中10rで不感性、Isonicotinic acid hyarazid に対しては100rまで、また Chlortetracycline に対しては100rまで不感受性であった。

海狸(1匹)に対して菌体1mgを腹腔内に注入し、87日目に検査したが、病的所見を認め得なかった。

その他は目下追索中である。

附記。私共の検査に黄色抗酸性菌を分與せられた雄勝中央病院の佐藤博士、並びに病理試験室主任成田八千郎氏に深甚の謝意を表する次第である。

☆秋田市周辺住民の寄生虫卵検査成績について☆

佐々木千代治

於ける十二指腸虫卵保有率は平均大約20~30%と推定されるという(小宮義孝氏)。

以上の統計から寄生虫卵保有率上の秋田県の位置を考えると、秋田県は最上位か、またはそれに近い位置を占めている。これは種々の事情があるにせよ、芳しからざること甚しい。それで本県に於ては寄生虫の撲滅について職場毎に検査に次いで駆虫を行い、またモデル地区を指定したりして住民や学童等に対して計画的に駆虫を励行したりなど、鋭意努力しつつあるので、成果好転の徴が見られて来た。勿論本県のように人糞に適当な処置を施すことなく施肥するところではこのような悪循環はまぬかれないことである故、もし徹底的に駆虫の目的を達しようと意志するならば、単に医療薬による駆虫法に頼るばかりでなく、人糞その他を合理的に処理する必要があることは明かすぎることである。

以下最近秋田市周辺に於ける寄生虫卵検索成績を提示して、それについて考えたいと思う。第1表に掲げた各施設は何れも秋田市内にあるもので、30年度検査人員994名中寄生虫卵保有者は462名で、保有率は従って46%で、全国平均を5%も上廻っている。蛔虫卵だけでも3施設合計994名中に415名が陽性で保有率41.8%と高率を示している。

全国の保健所等で行った集団検便の成績を厚生省で集計した厚生省集計について見ると、昭和30年度検査人員7,324,726名中寄生虫卵保有者は41%で、この寄生虫卵保有者のうち一番多いのは蛔虫のそれで、30年度全国平均は約33%で、これは数年前に較べると約3~4割方減少しているという。

次に蛔虫卵保有率を全国都道府県別に見ると、最も高いところで青森、山梨、滋賀県等で、何れも50%以上であり、次いで高知(48%)、秋田(46%)、岩手(45%)となっている。

また学童の寄生虫保有率に関しては文部省の指定統計に基づく学校衛生統計報告があるが、それによると、30年度小学校児童の保有率は平均男子38.8%、女子37.8%であり、厚生省集計の数字より高くなっている。

中学校生徒では学生よりやや減少しているが、それでも男子35.4%、女子36.1%となっているが、何れの場合に於ても蛔虫がその大部分を占めている。小学生徒について寄生虫の保有率が50%を占める高率のところは、秋田、宮城、長野、山梨、滋賀、高知、徳島、鹿児島等の諸県である。

次に十二指腸虫卵保有率は厚生省集計では30年度全国平均4.3%で、ここ数年来あまり増減がない。しかし精密に検査を行った結果による全国小都市および農山村に

第1表 昭和30年成人の寄生虫卵検査成績

被 検 施 設	寄生虫卵 検査人員	蛔 虫	鞭 虫	十二指腸 虫	東洋毛様 線虫	蟯 虫	肝ジスト ア	小 計
		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
秋田市地区政府管掌 健康保険適用事業所	468	167 (35.7)	30 (6.4)		5 (1.1)			187 (40.1)
日本石油株式会社 秋田製油所	356	179 (50.3)	38 (10.7)	1 (0.2)	5 (1.4)		2 (0.3)	198 (55.6)
東北電力株式会社 秋田営業所	170	69 (40.6)	12 (7.1)		3 (1.8)			77 (45.3)
計	994	415 (41.8)	80 (8.0)		13 (1.3)			

次に秋田市周辺または市内の小学校、中学校生徒を対象とした虫卵検査成績について述べると、保有虫卵の大部分が蛔虫卵であり、これに鞭虫卵が次ぐ。十二指腸虫卵の少いのは結構なことであるが、小宮氏も指摘しているが如く、検査術式に欠陥ないことはないと思う。

寄生虫のうち蛔虫卵の保有率は第2表に示してあるように1,949名中、陽性628名、保有率は昭和30年度に於ては32.2%となる。翌31年には2,698名中1,007名陽性、保

有率は従って37.3%となり、高値を示しているが、32年度には4,510名中陽性1,042名、保有率23.1%に激減している。但し下浜羽川のモデル地区では31.7%であるから奇異の感なきにしも非ずである。しかしモデル地区は選定の際には最も保有率の高い地区を選ぶべきであるから、今後このモデル地では更に低下することと思うし、またそのように期待するところである。

第2表 秋田市周辺小学校中学校生徒の寄生虫卵検査成績

検査 年月	施 設 名	検 査 人 員	蛔 虫 卵 (%)	鞭 虫 卵 (%)	十二指腸 虫卵 (%)	東洋毛様 線虫卵 (%)	蟯 虫 卵 (%)	肝ジスト マ卵 (%)	小 計
30—6	秋田市立 明德小学校	1,191	332 (27.9)	23 (1.9)		2 (0.2)			
30—11	秋田市立 浜田小学校	409	155 (38.1)	36 (8.8)		3 (0.7)			
30—6	牛島小学校	351	141 (40.2)	6 (1.7)		4 (1.1)			
	計	1,949	628 (32.2)	65 (3.3)					
31—6	明德小学校	1,050	210 (20.0)	55 (5.2)		3 (0.3)	1 (0.1)		
31—9	広面小学校	329	227 (69.0)	44 (13.4)	1 (0.3)	4 (1.2)			
31—11	外旭川小学校	395	201 (50.9)	42 (10.6)	1 (0.3)	2 (0.5)			
31—12	”	80	45 (56.3)	23 (28.8)					
31—12	金足中学校	354	150 (42.3)	79 (22.3)	3 (0.8)	6 (1.6)	1 (0.2)		

31—6	牛島小学校	490	174 (35.6)	25 (5.1)		2 (0.4)		
	計	2,698	1,007 (37.3)	268 (10.0)				
32—6	明德小学校	926	181 (19.5)	25 (2.7)		4 (0.4)		
32—12	〃	821	126 (15.3)	17 (2.1)		3 (0.4)		
32—12	秋田市立土崎中学校	1,431	284 (17.3)	18 (1.3)	2 (0.1)	3 (0.2)		
32—12	秋田市下浜羽川(モデル地区)	841	267 (31.7)	28 (3.3)	3 (0.4)	8 (1.0)		
32—9	牛島小学校	491	184 (37.4)	9 (1.8)				
	計	4,510	1,042 (37.1)	97 (2.2)				

む す ひ

寄生虫卵保有率は現在においてもかなり高い率を示している。この保有率を少くし、或は寄生虫を撲滅するためには医療も大切であるが、寄生するに至る循環のどこ

かをブロックすることも大切である。蛔虫ならばまず虫卵の全く附着していない完全清浄野菜を供給すべきである。野菜の栽培に糞尿を利用するならば糞尿を適当に処理した後に利用すべきである。

リンゴに残留する砒素、鉛及び銅の検査成績について

齋 藤 ミ キ
松 淵 忠 美

昭和31年10月28日の某新聞によると、厚生省は農薬白書を発表し、「リンゴをはじめすべての青果物の化学検査の嚴重化」を要望した旨報ぜられた。これはリンゴの栄養学的な素質の化学的検査を意味するものではなくして、防虫の目的で使用した農薬のことである。青果物のうち林檎について、日時不明であるが、シンガポールで日本のリンゴの有毒ポイコト騒ぎを起したことに端を発したものと思われる。同年同月27日東京都衛生局では長野、山形、福島県産のリンゴに有毒物(農薬からの砒素、鉛、銅)が附着していることを東京都衛生研究所に於ける綿密な検査成績を基礎として、各都道府県衛生部に緊急電話する一方、生産者に対する注意として、(1) 青果物生産農村では農薬の猛毒性を再認識して、確實安全な散布方法をとること、特に保存には十分注意して台所など身近なところに置いてはいけない、(2) 生産農民は青果物を売る二週間前から農薬を使ってはいけない。毒性の消えてないものを売ると過失致死罪に問われ

る、と警告を発すると同時に、消費者は買った青果物を必ず水で洗ってから食すること、(1)各家庭は日本食品協会が推薦している合成洗剤でよく水洗することを発表した。また東京都衛研からも「水洗いもせず皮のままリンゴを食べることは有害である」と発表された。

翌10月29日福島民報では都衛研で再調査の結果福島県産リンゴについては該当がなかった旨の連絡があったと報じているが、福島衛研と福島保健所に於て大笹生、野田、瀬上などのリンゴを検査したところ、極く少量の鉛や銅が検出されたことを報じた。

また31年11月1日朝日新聞では、長野県衛研に於ける検査ではリンゴに鉛や銅の存在の認めたが、その量が百万分の一以下(?)であった旨発表している。なお11月9日の朝日では、東京都生局の検査の対象になったリンゴは青森、岩手、秋田、山形、宮城、福島、長野など7県産のもので、砒素の他銅や鉛も検出せられたことを再確認し、しかし含有量は許容量よりも遙かに少く、危険で